様式第5号(第9条関係)

論 文 内 容 の 要 旨

報告番号	空　欄	氏　名	高谷 広章
ADAMTS13 activity may predict the cumulative survival of patients with liver cirrhosis in comparison with the Child-Turcotte-Pugh score and the Model for End-Stage Liver Disease score 血漿ADAMTSは肝硬変患者の予後をChild-PughスコアやMELDスコアと同様に生存率を予測できる可能性がある			

論文内容の要旨

ADAMTS13 (A Disintegrin-like And Metalloproteinase domain, with ThromboSpondin type-1 motif 13)は、血管内皮細胞から放出される超高分子量 VWF multimer (UL-VWFM) を切断する亜鉛含有酵素であり、主に肝星細胞で産生される。ADAMTS13 は血栓性血小板減少性紫斑病 (thrombotic thrombocytopenic purpura: TTP) の発症との関連で脚光を浴びているが、最近肝障害時における ADAMTS13 の動態が、肝障害の発症・進展ならびに多臓器不全合併との関連において注目されている。一方、肝硬変(LC)の予後は種々の臨床指標を組み合わせて判定されており、予後予測に有用な単一のマーカーはいまだ明らかでない。著者らは 108 例の LC 患者の血漿 ADAMTS13 活性を測定し、LC の重症度、合併症の有無、生存率等の各種パラメータとの関連について検討した。血漿 ADAMTS13 活性は LC-Child A 79%, Child B 63%, Child C 31%と低下し、肝腎症候群、大量腹水、肝性脳症合併群では著減した。肝硬変患者の累積生存率は血漿 ADAMTS13 活性著減群 (<3-25%) が最も短く、次いで血漿 ADAMTS 活性中等度低下群(25-50%)、血漿 ADAMTD13 軽度低下群(>50%)の順であった。一方 Child-Pugh スコアでは Child C が最も生存率が低く、Child A と B では差が出なかった。また MELD スコアでは第 4 四分位群が最も生存率が悪く、第 1-3 四分位群では差がなかった。COX 比例ハザードモデルでは ADAMTS13 とアルブミンが生存に寄与する独立した因子であった。血漿 ADAMTS13 活性は肝機能の低下とともに減少し Child-Pugh スコアや MELD スコアと同等に有用なマーカーであり、短期並びに長期間の予後を予測できる可能性がある。